

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ①基礎的・基本的な知識及び技能の一層の習熟を図るため、学習内容を繰り返し復習することに、継続して取り組んできた。具体的には、昨年度リニューアルされたクロームブックの「タブドリ」を活用した復習や、東京ベーシック・ドリルによる学年をまたいだ復習課題への取組を、授業や宿題の中に適切に位置付けるよう努めてきた。その結果、学習効果測定「数と計算」分野では、各学年で目標値に近い結果が得られている。
- ②毎時間の学習を振り返る時間を確保するよう、全校で継続的に取り組み、児童がその時間の学習内容を整理したり、次の時間の見通しをもったりする姿が見られる。

(2) 課題

- ①児童が様々な集団の中で自分の考えを適切に表現することができるようにするため、昨年度に引き続き、授業の中に、児童が言語のほかに図や表、式などを活用して自分の考えを伝え合う場を設定する必要がある。式や文章の意味を結びつける学習や自分の考えを言語化する場面を設定することが必要である。
- ②学習効果測定の結果から、「図形」分野が弱いことが分かった。作図活動を取り入れ操作感覚を養うこと、具体物や模型を活用し、面積から体積へのつながりを意識させることが大切である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全体的に目標値を若干下回る。		
第5学年	全体的に目標値を若干下回る。	全体的に目標値を若干下回る。(第4学年時)	
第6学年	全体的に目標値を下回る。	全体的に目標値を下回る。(第5学年時)	全体的に目標値を若干下回る。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を若干下回る。小数や分数の基礎、グラフの読み取りは定着している。一方で、かけ算やわり算の意味理解や応用、円の理解を苦手としている。	目標値を下回る。□を使った式や長さ・重さの基礎は理解している。一方で、立式の理由を答える問題や式と文章を対応させる力が不足している。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
5・6学年とも、目標値を下回る。図を使って割合や比を求める問題には慣れていると言える。一方、計算のルール（複雑	5学年は目標値を若干上回り、6学年は目標値を下回る。グラフの読み取りはできているが、割合や速さ、関数的な変化に対する理

な式や混合)、分数の計算を苦手としている。	解が不足している。
-----------------------	-----------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数える・数の大小を比べる・測る・半具体物を操作するなどの活動に繰り返し取り組む。 ・「ドリルパーク」等を活用して、デジタルベースでも学習内容の復習に繰り返し取り組む。	・算数ブロックを並べたり、式や簡単な図をノートに書いたりして、自分の考えを表現する習慣を身に付けさせる。また、友達とその表現を見せ合って、異なるやり方を見たり、互いの考えを比べたりする。	・学習のめあてを意識して、見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、ごく簡単な学習の振り返り（ハンドサイン、選択肢も可）を各単元の終末等に位置付ける。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・問題文の中の「数」が何を意味しているのか、図などを用いて説明する活動を取り入れる。 ・「ドリルパーク」等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 ・長さ・重さ・面積の量感をもつことができるようにするため、実際に計測する活動を取り入れる。	・「なぜそう考えたか」を口頭や文で説明したり、話と式を対応させたりする活動を取り入れる。 ・式、図、文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。また、友達とその表現を基に話し合うなどして、異なる考えの比較、関連付け、組み合わせなどを行い、考えを広げたり深めたりする。	・学習の必要感をもたせるため、身近で具体的な出来事を基にした学習課題に取り組む。 ・児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを授業の終末等に位置付ける。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・複雑な式の理解や分数・小数の計算練習を増やす。 ・「ドリルパーク」等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 ・長さ・重さ・面積・体積の量感をもつことができるようにするため、実際に計測する活動を取り入れる。	・割合や速さなど、変化の規則を発見させる場面を設ける。 ・課題解決のためにどの既習事項が活用できるかを考えるよう促し、見通しをもたせる。 ・式、図、文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。また、友達と話し合うなどして、異なる考えの比較、関連付け、組み合わせなどを行い、よりよい問題解決方法を探るようにする。	・児童の知的好奇心を刺激するとともに、学習の必要感をもたせるため、身近な出来事を基にした学習課題に取り組む。 ・児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを授業の終末等に位置付ける。